

1. 科目名（単位数）	臨床心理学特論（4 単位）	3. 科目番号	PSMP5135
2. 授業担当教員	山田 一子		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		
7. 講義概要	この授業では、臨床心理士の専門性や社会における役割・責任について扱う。心理学部生が一般に身につけている知識等を踏まえて事前学習を行い、より専門的な内容を学び、心理職としてのアイデンティティや倫理、ケースの考え方、そして他職種との連携の取り方などについて、より具体的に学ぶ。 さまざまなクライアントに対して、多様な枠組み・発想の仕方であうことが出来るように、基礎的なコミュニケーションについて触れ、複数の異なる心理療法アプローチから様々な観点を学ぶ。		
8. 学習目標	心理職は、学派にとらわれずに、クライアントや現場に応じて、必要な役割を担いながら、心理アセスメントを行い、適切な心理学的支援法を選択し、クライアントやその現場に対応することが求められている。臨床心理士としての意識を確立し、その責任のあり方を自覚すること、そして、卒業後の学習に向けての基礎を作ることを目標とする。		
9. アサインメント（宿題）及びレポート課題	・教科書を参考に事前学習を行い、更に各種の文献を探してまとめ、自分の意見を発表できるように準備すること。 ・各種の技法や事例について話し合う際に、セラピストの働きかけや、クライアントの変化について、各自が、それぞれに見立てを考えるようにすること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 指定しない 【参考文献】 子安増生・丹野義彦・箱田裕司（2021）. 有斐閣 現代心理学辞典 有斐閣 小川俊樹・倉光修（2017）. 臨床心理学特論 放送大学 『臨床心理学』編集委員会(2018). 臨床心理学 第18 巻第4 号(公認心理師のための職場地図) 金剛出版 丹野義彦・石垣琢磨・毛利伊吹・佐々木淳・杉山明子（2015）. 臨床心理学 有斐閣 氏原寛・成田善弘・東山紘久・亀口憲治・山中康裕（編）(2004). 心理臨床大事典 培風館		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・各テーマの内容を理解し、臨床心理士としての自覚を高める。 ・自分の日常や感性などと絡めて考え、自分なりの意見を持つこと。 ○評定の方法 ・課題・レポートへの取り組み 50% 授業参加態度 50%		
12. 受講生へのメッセージ	心理職が行う面接が、他の専門職が行う面接と同じでは、心理職が存在する意味がありません。何が、心理職としての関わりなのかを常に検討し続けられるように、その基礎を学んで欲しいと思います。そして、心理職として継続的に勉強する習慣を身につけて欲しいと考えます。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1～2. テーマ	自分自身について振り返る		
【学習の目標】 自分が心理職になろうと思った動機や自分の社会的態度について振り返る。 【学習の内容】 相手のために自分を使うということについて検討する。 【キーワード】 動機、逆転移 【学習の課題】 自分の動機について振り返り、援助職としての必要なことをイメージする。 【参考 文献】 M コーリィ・G コーリィ（2004）. 心理援助の専門職になるために 金剛出版 津川律子・安齊順子（2007）. インタビュー臨床心理士1 誠信書房 津川律子・安齊順子（2007）. インタビュー臨床心理士2 誠信書房 【学習する上での留意点】 自分に求められないことを、クライアントに本気で求めることはできません。人として平等の感覚でいることについてよく考えること。			
3～5. テーマ	心理職としての態度・話の聞き方		
【学習の目標】 心理職の専門性、目指される方向性を明確にする。心理面接の基礎になる構造について理解する。 【学習の内容】 日々取り組むべき方向性、心理職としての基礎的な態度の検討を行う。面接の構造（方法、部屋、料金、頻度など）の意味や影響について検討する。 【キーワード】 専門性、治療構造、治療契約 【学習の課題】 知識としてではなく、心理職の行なっている専門性を理解すること。面接の構造一つ一つの意味を理解すること、また、それらの上で面接が成り立っていることを学ぶ。 【参考 文献】 馬場禮子（1999）. 『精神分析的な心理療法の実践—クライアントに出会う前に』岩崎学術出版社 Miller,S.D.,Hubble,M.A.& Duncan,B.L（1997）. ESCAPE FROM BABEL 曾我昌祺(翻訳).『心理療法・その基礎なるもの』金剛出版, 2000 村瀬嘉代子・青木省三（2014）.『心理療法の基本[完全版]』金剛出版 津川律子（2009）『精神科臨床における心理アセスメント入門』金剛出版 【学習する上での留意点】 どんな専門家も生活の大半の時間を、準備や練習に費やしている。心理職が、日々行うことができる心理療法のためのトレーニングを検討すること。また、知識を蓄えるというよりも、自分たちで考え、発想し、実践することを目指す。			
6～7. テーマ	精神分析学、力動的な心理療法		
【学習の目標】 精神分析的な心理療法の考え方（人間観、問題の見立て方や介入の仕方）を理解する。 【学習の内容】 厳密な精神分析セッティングに触れる心理職は限られているが、力動的なアプローチは多くの心理面接に有用な考			

	方である。精神分析の中で、分析家が行なっている思考や検討を学ぶ。 【キーワード】 無意識、対象関係、転移・逆転移 【学習の課題】 言語的なやりとりとその人との無意識的なやりとりを、精神分析がどのように検討するかに触れる。 【参考 文献】 Casement,P. (1985). Learning from the patient. 松木邦裕 (訳)『患者から学ぶ』岩崎学術出版社, 1991 栗原和彦 (2019). 臨床家のための実践的治療構造論 遠見書房 【学習する上での留意点】 概念や用語が複雑であったり抽象的であったりするが、それが実際の・具体的に指し示すことを考える。
8～9. テーマ	認知・行動論的アプローチ
	【学習の目標】 認知・行動論的アプローチの考え方（人間観、問題の見立て方や介入の仕方）を理解する。 【学習の内容】 認知行動療法において、どのように問題を見立て、クライアントの思考を整理して、どのように扱うのかについて検討する。 【キーワード】 自動思考、スキーマ、意識、エビデンス 【学習の課題】 個別性という観点で、事例の検討・介入の仕方を学ぶだけでなく、エビデンスの求め方を含む一般性の観点からも、その知見を学ぶ。 【参考 文献】 Beck,J.S. (2011). Cognitive Behavior Therapy: Basics and Beyond 伊藤絵美・神村栄一・藤澤大介(訳)『認知行動療法実践ガイド 基礎から応用まで』第2版. 星和書店 伊藤絵美 (2008). 事例で学ぶ認知行動療法 誠信書房 山上敏子 (2016).『新訂増補 方法としての行動療法』金剛出版 【学習する上での留意点】 一見、テクニカルな技法に思えるが、いかにクライアントをアセスメントして、クライアントとのやりとりを基礎とした療法であるかについても学ぶ。
10～11. テーマ	人間性心理学、来談者中心療法
	【学習の目標】 来談者中心療法の考え方（人間観、問題の見立て方や介入の仕方）を理解する。 【学習の内容】 来談者中心療法やパーソンセンタードアプローチにおいて、どのような態度でどのような点に焦点をあて、クライアントを援助しているのかを検討する。 【キーワード】 自己一致、共感的理解、無条件の肯定的関心 【学習の課題】 働きかけることの意味と働きかけないことの意味を検討し、その適した場面やクライアントについても合わせて理解する。 【参考 文献】 Axline,V.M. (1964). DIBS in search of self 岡本浜江 (訳)『開かれた小さな扉—ある自閉児をめぐる愛の記録』日本エディタースクール出版部, 2008 吉良安之 (2015).『カウンセリング実践の土台づくり』岩崎学術出版 岡村達也・小林孝雄・菅村玄二 (2010).『カウンセリングのエチュード』遠見書房 佐治守夫 (2007).『臨床家 佐治守夫の仕事2 事例編 治療面接』赤石書店 【学習する上での留意点】 傾聴という活動が、単に、批判をせずに話を聴くということではないことや、どうすることで効果的に用いられるかについて理解する。
12. テーマ	ブリーフセラピー、ナラティブセラピー
	【学習の目標】 ブリーフセラピーやナラティブセラピーの考え方（人間観、問題の見立て方や介入の仕方）を理解する。 【学習の内容】 短期的に問題を解決するために効果的な働きかけとされるブリーフセラピーの技法を学ぶことで、どのような働きかけが変化を促す働きをするのかを検討する。 【キーワード】 解決志向、社会的構成論 【学習の課題】 クライアントやセラピストのことをどのような人間観で捉えているか、また、技法の背景にある狙いや意味、その技法の使い方について理解する。 【参考 文献】 Duncan,B.L, Hubble,M.A. & Miller,S.D. (1997). Psychotherapy with “Impossible” Case 児島達美・日下伴子(翻訳).『「治療不能」事例の心理療法—治療の現実—に根ざした臨床の知—』金剛出版, 2001 森俊夫・黒沢幸子 (2002).『森・黒沢のワークショップで学ぶ解決志向ブリーフセラピー』ほんの森出版 【学習する上での留意点】 単なる質問と捉えるのではなく、その背景にある意図や、その質問が効果的であるという根拠の見つけ方（クライアントのリソースをアセスメントする視点）を理解する。
13. テーマ	臨床動作学、臨床動作法
	【学習の目標】 臨床動作法の考え方（人間観、問題の見立て方や介入の仕方）を理解する。 【学習の内容】 臨床動作法における見立ての仕方、動作を理解しつつ心理を理解するという枠組みを学ぶ。 【キーワード】 体験様式、体験治療論 【学習の課題】 動作と言葉を別物として捉えずに、同じように人間の心理的な活動を理解したり、働きかけたりできるものであることを学ぶ。 【参考 文献】 成瀬悟策 (2009).『からだところろ』誠信書房 成瀬悟策 (編著) (2019).『動作療法の治療過程』金剛出版 鶴光代 (2007).『臨床動作法への招待』金剛出版 【学習する上での留意点】 人間の心理活動の基礎について理解しようとする視点で理解すること。からだに働きかけることの留意点や倫理的な配慮についても学ぶ。
14. テーマ	集団療法、グループダイナミクス
	【学習の目標】 集団療法の考え方（集団の観点、問題の見立て方や介入の仕方）を理解する。 【学習の内容】 集団療法における見立ての仕方、取り扱い方を理解し、集団から個人を理解するという枠組みを学ぶ。 【キーワード】 集団心理療法、集団の力、グループ 【学習の課題】 集団を見ること、個人を見ることの関連について理解する。 【参考 文献】 相田信男 (2006). 実践・精神分析的精神療法—個人療法そして集団療法 金剛出版 【学習する上での留意点】 集団で行われる心理療法について、その考え方と実施の方法、個人療法との違い、適用範囲などについて学ぶ。

15. テーマ	事例検討会・ケースカンファレンスについて
【学習の目標】事例検討会への発表者としての取り組み方や参加者としての取り組み方について理解する。 【学習の内容】事例検討会の意義やその中で出来ることについて検討する。 【キーワード】事例検討会、ケースカンファレンス 【学習の課題】上記内容を理解し、自分の取り組み方について目標を立てることができる。 【参考 文献】藤山直樹（監修）大森智恵(編著) (2018).『心理療法のポイント ケース検討会グループから学ぶ』創元社 成田善弘ら（2018）. 事例検討会から学ぶ―ケースカンファレンスをつくる 5つのエッセンス 金剛出版 【学習する上での留意点】発言することを通じての理解や練習といったこともあるため、積極的に自分の考えを発言するなど、ケースカンファレンスにどのように取り組むかについて、個々人で検討する。	
16～18. テーマ	ライフサイクル論（乳幼児期～老年期）
【学習の目標】人の発達と心理的問題について理解する。 【学習の内容】ライフサイクルについての心理力動論に立脚した代表的な理論を通じて、発達段階とそれに付随する心理的な問題、およびその意味を検討する。 【キーワード】発達課題、漸成説、E.H. エリクソン 【学習の課題】上記内容を理解し、自分なりに発達課題と心理的問題を理解し、心理臨床的な観点から説明できる。 【参考 文献】馬場禮子・永井徹（1997）. ライフサイクルの臨床心理学 培風館 【学習する上での留意点】ライフサイクルとそれぞれの発達課題について、問題となる事例との関連で実感的な理解に繋がることを望ましい。	
19～21. テーマ	精神疾患、精神病理
【学習の目標】精神疾患の歴史的な背景や診断基準などを理解する。 【学習の内容】精神疾患の歴史背景や現在の状況を理解し、主要な疾患や病理について検討する。 【キーワード】精神障害、病理、神経症、心身症、精神病、ICD、DSM 【学習の課題】精神疾患、病理を踏まえて、精神的な問題の機序を理解できる。 【参考 文献】American Psychiatric Association（2014）. DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引 融道男・小見山実・大久保善朗・中根允文・岡崎祐士（翻訳）（2005）. ICD - 10 精神および行動の障害―臨床記述と診断ガイドライン 医学書院 【学習する上での留意点】精神疾患の機序を理解し、実際のケースと照合し、疾患と個人の苦悩についても理解するように試みる。	
22～24. テーマ	心理アセスメント、セラピューティックアセスメント
【学習の目標】心理アセスメントやセラピューティックアセスメントの考え方を理解する。 【学習の内容】心理アセスメントやセラピューティックアセスメントが、どのような専門性で、クライアントをどのように捉え、心理検査の結果をどのように使って、協働的に目標に向かって行くかを理解する。 【キーワード】治療的アセスメント、フィードバック面接、アセスメント面接、心理検査 【学習の課題】検査者と被検者が、対等な立場で、どのように目標に向かう協働を行なっていくかについて学ぶ。 【参考 文献】上里一郎（2001）. 心理アセスメントハンドブック 西村書店 Finn,S.E.（2007）. In our clients' shoes(Counseling and Psychotherapy) 野田昌道・中村紀子（訳） 『治療的アセスメントの理論と実践』金剛出版、2014 【学習する上での留意点】心理アセスメントと心理面接との関連性を考え、協働的に課題を検討したり、目標を検討する方法や、クライアントへの配慮や面接の進め方について学ぶ。	
25. テーマ	保険医療分野における臨床心理学、心理臨床
【学習の目標】総合病院や単科精神科病院、クリニックでの心理職の役割や実情について理解する。 【学習の内容】テーマに沿った事例を読んで、上記内容について検討する。 【キーワード】保険医療、チーム医療 【学習の課題】上記内容を理解し、心理職の専門性や自分がそのような分野で働くとき仮定した場合の立ち居振る舞いについて、具体的にイメージすることができる。 【参考 文献】臨床心理学 第15巻第1号(特集:これだけは知っておきたい医療・保健領域で働く心理職のスタンダード) 金剛出版 【学習する上での留意点】医療では多くの職種の専門職がチームを組んでいるので、そうした役割分担や連携についても理解する。	
26. テーマ	教育分野における臨床心理学、心理臨床
【学習の目標】小学校、中学校・高校、教育相談所などでの心理職の役割や実情について理解する。 【学習の内容】テーマに沿った事例を読んで、上記内容について検討する。 【キーワード】チーム学校、不登校、スクールカウンセラー 【学習の課題】上記内容を理解し、心理職の専門性や自分がそのような分野で働くとき仮定した場合の立ち居振る舞いについて、具体的にイメージすることができる。 【参考 文献】臨床心理学 第15巻第2号(特集:これだけは知っておきたい学校・教育領域で働く心理職のスタンダード) 金剛出版 【学習する上での留意点】学校は、児童生徒と教員が中心である組織であることを踏まえた役割分担や連携についても理解すること。	
27. テーマ	福祉分野における臨床心理学、心理臨床
【学習の目標】児童相談所等の福祉施設での心理職の役割や実情について理解する。 【学習の内容】テーマに沿った事例を読んで、上記内容について検討する。 【キーワード】アウトリーチ、地域支援、包括的アセスメント 【学習の課題】上記内容を理解し、心理職の専門性や自分がそのような分野で働くとき仮定した場合の立ち居振る舞いについて、具体的にイメージすることができる。 【参考 文献】臨床心理学 第15巻第5号(特集:これだけは知っておきたい福祉領域で働く心理職のスタンダード) 金剛出版 【学習する上での留意点】多くの暮らしのスタイルや生き方について知り、生活をより直接的に支える中で、心理の専門性をどう活かすかを理解する。	

28. テーマ	産業・労働分野における臨床心理学、心理臨床
【学習の目標】 産業・労働分野での心理職の役割や実情について理解する。 【学習の内容】 テーマに沿った事例を読んで、上記内容について検討する。 【キーワード】 EAP、ストレスチェック、復職支援・リワーク、集団、グループ 【学習の課題】 上記内容を理解し、心理職の専門性や自分がそのような分野で働くとは仮定した場合の立ち居振る舞いについて、具体的にイメージすることができる。 【参考 文献】 臨床心理学 第15巻第3号(特集:これだけは知っておきたい産業・組織領域で働く心理職のスタンダード) 金剛出版 【学習する上での留意点】 会社組織の形や仕事と人生の関係、そして、それらを取り巻く法律についても理解すること。	
29. テーマ	司法・矯正分野における臨床心理学、心理臨床
【学習の目標】 司法・矯正分野での心理職の役割や実情について理解する。 【学習の内容】 テーマに沿った事例を読んで、上記内容について検討する。 【キーワード】 少年事件、被害者支援 【学習の課題】 上記内容を理解し、心理職の専門性や自分がそのような分野で働くとは仮定した場合の立ち居振る舞いについて、具体的にイメージすることができる。 【参考 文献】 臨床心理学 第15巻第4号(特集:これだけは知っておきたい司法・矯正領域で働く心理職のスタンダード) 金剛出版 【学習する上での留意点】 非行少年・成人事件の手続きや、各機関の役割も理解すること。	
30. テーマ	臨床心理学における研究倫理、心理臨床における実践倫理
【学習の目標】 心理学一般、心理職一般に言われている倫理について理解する 【学習の内容】 守秘や搾取の問題（自分の目的のために相手を利用しないこと、相手を大切にすることを含む）、多重関係などの問題について具体的に学ぶ。 【キーワード】 守秘義務、多重関係 【学習の課題】 研究を行う前に、また、現場に出る前に理解すべき倫理について学び、自分の態度について振り返る。 【参考 文献】 金沢吉展（2006）. 臨床心理学の倫理をまなぶ 東京大学出版会 津川律子・元永拓郎（2017）. 心理臨床における法と倫理 放送大学教育振興会 【学習する上での留意点】 大問題となるような倫理的問題は、自分には起らないと思うかもしれないが、倫理的にグレーだと思われる内容の出来事は日々起こる。いずれにせよ、現実感を伴って自分の欲求を把握し、コントロールすることが必要であり、人ごとと思わずに、取り組むこと。	